



TEAM NEXT
YONEZAWA

地元の雪と向き合い 冬の暮らしをサポートする

国内有数の豪雪地、米沢市。降り積もる雪の処理は多くの市民にとって悩みの種であり、路面の凍結や屋根からのつららの落下、落雪による事故など、場合によっては命に関わる重大な事態を引き起こす危険性もあります。

そうした悩みを解決し、長い冬を快適に過ごすサポートをしてくれるのが「日建設備」。ボイラーによる融雪が主流だった時代に、他企業に先駆けていち早く電気融雪に着目し、以来20年以上、地域の暮らしに寄り添った融雪事業を続けてきました。「相談していただいたことに対し『それはできない』とは言いたくないと考えています。少しでも楽に過ごしていただけるよう手助けがしたい」と、加藤さんは仕事にかける熱意を語ります。

「乾いたサラサラの雪と湿気を含んだベタベタの雪、両方が降るので、数ある雪国の中でも米沢は特に雪の処理が難しいと思います」と話す加藤さん。この問題を解決すべく独自に開発したのが融雪ネットヒーター「淡雪」です。農業用の育苗ヒーターから着想を得て作られたこのネットは、玄関や屋根など積雪が気になる場所にどこにでも設置が可能とのこと。「お年寄りや核家族世帯など、人手が足りず雪かきの負担が特に大きい人たちにとっての強い味方になってくれるのでは」と加藤さんは期待を寄せます。

最後に、今後の目標について加藤さんは「他の雪国の企業との連携など、やったことがないことにもどんどん挑戦していきたいと考えています。地域に密着し、お客様と一緒に考えながら、冬でも暮らしやすい米沢を創っていききたいですね」と話しました。

住宅設備の販売・リフォームなどを行う

株式会社 日建設備 (万世町片子)

昭和46年設立。常務取締役の加藤剛士さん(写真)は19年前、家業を継ぐことを決心し東京から地元米沢へUターン。無料相談からアフターフォローまで幅広いサービスを提供している。



「淡雪」を設置した屋根

「米沢品質向上運動」とは

本市では、挑戦と創造のあかし「米沢品質」をスローガンに掲げ、製品だけではなくサービス・観光・文化・行政など、様々な領域の「挑戦と創造」を喚起し、付加価値を高めていくことを目的に「米沢品質向上運動」を展開しています。本市のブランディングに賛同し、この運動に参加するプレイヤーが「TEAM NEXT YONEZAWA (TNY)」です。(11月14日現在、151の企業・団体・個人が登録)

